



1987 24 Heures du Mans

日曜日、仮眠に戻ったホテルを夜明け前に出る。まだ覚めない耳に遠くのサルテサーキットから湿った空気を通して排気音が聴こえてくる。カン高いロータリー、ヌケのいいのはボルシェ、低く重いのはジャガーか。写真は1987年に4700Kmを走りきったワークス962Cのスタートセレモニー。この17優勝車はボルシェミュージアムに保存されていたが、つい先日、ルマン・クラシック・ジャパンのエキシビジョンでフジスピードウェイに現れた。



PORSCHE 962C_1985~1988

80年代前半に世界耐久選手権(グループC)を席巻していた956のいわばマイナーチェンジ版が962C。モノコックのフロント部分を変更し、サスペンションを120mm前方に移したことが956との最も大きな違いだ。これはFISA車両規定の変更によるもので、ドライバーの足先が前輪車軸より後方にならなければならないことに対応したものだ。現在VW/アウディの一部車種に採用されている「DSG」の元祖「PDK」を初搭載したことも知られ、写真の87年ル・マンでもワークス勢3台のうち1台(19号車)はPDK搭載車であった。

Competition Reminiscence

～思い出の一葉～

松本高好 Takayoshi Matsumoto

フリーランス・フォトグラファー。WRCやルマン24時間レースなどハコ系モータースポーツシーンをフォローしている。最近のお気に入りにはWTC。ドラマチックな陰影や空気感のある作品に定評あり。

心震えるエグゾーストサウンド、コンパウンドの焦げる匂い……懐かしのコンペティションシーン。

文・写真／松本高好